

2022年10月26日

埼玉県勤労者山岳連盟加盟団体代表者様

埼玉県勤労者山岳連盟

理事長

瀬下啓司

遭難防止・安全教育委員会担当理事

山行分野別グループ・岩人代表

上野 司

山行分野別グループ・沢人代表

真 華丸

遭難防止・安全教育委員会は、今年3月末の県連盟総会で、「アルパインクライミンググループ（岩人）」及び「沢登りグループ（沢人）」結成の呼びかけを行いました。その後、総会時に出された過去の理事会決定に対する疑問にも答える形で、理事会としての「バリエーション登山推進」の声明も出し、活動を進めて来ました。岩人、沢人は、天候不順のため、予定していたいくつかの山行の中止や変更を余儀なくされましたが、現在、どちらのグループも20名を超える登録者を迎え、旺盛に活動を進めています。

岩人、沢人など山行分野別のグループ活動については、期待する声のある一方で、事故が起きる危険が増すのではという不安の声があることも承知しています。山行数が増え、危険度の高い山に行くメンバーが増えることが、事故の可能性を拡大してしまうというジレンマは登山の世界の宿命であるとも言えますが、それだからこそ、私たちには事故を起こさない決意と努力が一層求められています。

とりわけ、会を越えて集まる連盟の組織には、各会での登山以上の慎重さが求められるでしょう。事故時の連絡体制、安全対策などについても意見が寄せられています。現在、計画書の提出先となり、事故時の連絡本部となる役割は各会となっていますが、岩人、沢人の山行での事故では、それがどうなるのか、各会の担当者なのか岩人・沢人の担当者なのか、その辺りも決めておいて欲しいということです。

そこで、私たちとしては、岩人・沢人として行う山行とは何か、その定義を明確にし、計画書の提出方法や事故時の対応などについても、あらかじめ決めておくことで、活動の進め方や事故対応に混乱がないようにしたいと思います。また、山行を安全に実施するための方策と基準についても再確認し、安全登山を目指していきたいと思います。以下、山行分野別グループ・岩人、沢人として活動するにあたっての基本方針をお示ししますので、関心のある所属会員の皆さんにご紹介いただければと思います。

山行分野別グループ・岩人、沢人の基本方針

活動の目的

1. 会を越えての交流・学習・実践を通して、アルパインクライミングの力や沢登りの力を

- つけ、アルパインクライミングや沢登りを楽しむ
2. アルパインクライミングや沢登り経験者が初級者に教えることを通し、楽しむ仲間を増やす
 3. 以上のことを通して、加盟各会や埼玉県連盟の登山力アップを図る

岩人・参加条件

1. 埼玉労山会員であり、労山山岳事故対策基金に5口以上入っていること
2. 活動によって培った技術・経験を、技術講習や新人の養成など、今後の会活動、連盟活動の発展に生かす意思のあること
3. 次の力を既に身に着けていること
 - ① ATCなどの確保器を使用したリードビレイ、トップロープビレイが出来ること
 - ② シングルピッチでのIV級(5.6)程度のリードクライミングが出来ること
 - ③ 10キロ程度の荷物を持って、1日8時間程度の登山ができること

沢人・参加条件

1. 埼玉労山会員であり、労山山岳事故対策基金に5口以上入っていること
2. 活動によって培った技術・経験を、技術講習や新人の養成など、今後の会活動、連盟活動の発展に生かす意思のあること
3. 10キロ程度の荷物を持って、1日8時間程度の登山ができること

参加方法・連絡方法・活動方法

- ① 活動の目的を了承し、参加条件を満たしている者は誰でも参加することができる
- ② 参加を希望する者は、岩人・沢人代表に参加申し込みのメールを送り、代表からの承認を受けたのち、諸連絡・交流のためのライングループへの招待を受ける。
- ③ 参加希望者は、招待を受けたら、ライン上で新メンバーとしての自己紹介を行う
- ④ メンバーは、自らの登山力量の発展とグループの発展を目指し、積極的に活動する

組織体制

代表を中心とした集団指導体制を目指していくが、当面は、代表1名を互選により選出し、代表を中心とした指導、連絡体制を構築する。当面の代表は、岩人は県連盟理事で、アルパインクラブNPOさいたまの上野司、沢人は県連盟理事で、蓮田山の会の真華丸が務める。

岩人・沢人としての山行の定義

山行管理、事故発生時のスムーズな対応等のため、岩人・沢人に参加するメンバーの全ての山行を岩人・沢人山行とするのではなく、以下の山行に限定して「岩人山行」「沢人山行」とする。

① 岩人、沢人で主催・共催する教室、講習会

例えば、沢人が共催している2022年10月の沢登り教室など

② 岩人、沢人の合宿、練習会など、代表が中心となり決定された山行

例えば、岩人の穂高岳合宿、谷川岳合宿など

③ 岩人・沢人のメンバーだけで行われ、会を跨いで行う山行で、代表に申請し、代表の許可を受け、グループラインに計画書が公開されたもの。

(岩人・沢人のメンバーは、「岩人山行」「沢人山行」については、所属会に提出する計画書に、そのことを明記すること)

山行を安全に実施するための方策と基準

① 岩人、沢人は、会をまたいでのベテラン同士の交流とともに、初級者の学習・成長の場となることを目指すが、初めのうちは参加者同士がよく知らない場合も多いので、ゆっくり着実に、お互いの個性・力量・志向などを掴みながら進むことが大切である。とりわけ、初心者がバリエーション登山の世界を広げていく際には、「ゆっくり着実に」を原則として、成果を求めるあまり、決して初級者を急いで、無理に引き上げるような対応をしてはならない。

② 岩人、沢人の活動に参加する人は、山行は常に危険と隣り合わせであること、事故の責任は全て自分で負うことを理解し合い、別紙のような「確認書」を岩人・沢人の代表と所属会会長に提出する。このことにより、安易なリーダー、パーティー依存の考えを改め、緊張感を持った山行を続けることで、事故を減らす。

③ 代表、及び山行リーダーは、目標ルート、山行日程に対して、明らかに力不足の者の参加は許可しない。

(懸垂下降が必要となるルートで、懸垂下降技術の未熟な者など)

④ 代表、及び山行リーダーは、次の基準で、パーティー全体の力量を計算した時に、マイナスになってしまう山行は行わない。

参加者の登山力量を、自分のことはもちろん他のメンバーの登りにも注意を向けられる余裕のある人をプラス1、自分のことはミスなくできるが、自分のことにいっぱい他のメンバーのことには注意が向けられない人を0、他のメンバーからの助けがないとまだ一人では安全確実に登ることの出来ない人をマイナス1と考えたとき、参加者の点数の合計がマイナスになってしまうような山行は事故が起きやすいので、中止する。

たとえば、余裕をもって行けるベテラン・経験者が3人でプラス3、余裕はないが心配なく行ける人3人、ヘルプが必要な初心者4人の10人で行く合宿の場合、数値を合計するとマイナス1点になるので、危険が多いと判断される。

⑤ 代表及びリーダーは、悪天候が予想される場合、現場でルートの状態が想定したものよりかなり悪い場合は、中止もしくはルート変更を行う。ルートの変更は、ルートに取りつくまでに、代表者の許可を得て行うこととする。

⑥ アルパインクライミング、沢登りでの安全登山を目指す上で、2020年に出された県連盟による『安全登山マニュアル』を参考にする。

計画書提出、事故時の対応、救助体制

① 山行管理は所属会で行うことが原則なので、岩人・沢人メンバーは全ての山行計画書を所属会に提出するが、「岩人山行」「沢人山行」の場合は、計画書を所属会と岩人・沢人の両方に出すことで、代表やグループ仲間からの具体的アドバイスを受ける。また、それにより、事故発生時の対応もスムーズになるものと考えられる。

② 事故時には、岩人山行では、岩人の代表が、沢人山行では、沢人代表が中心となり、事故者の所属会とも連絡を取りながら対応する。救助対応については、行政機関・県連盟救助隊、所属会と連絡を取りながら行う。

③ 事故対策基金に関わる事故一報や申請書は、事故者の所属会の担当者が行うが、事故の経過などについて岩人・沢人として情報提供を行う。事故報告書については、岩人・沢人が作成の責任を負う。

岩人、沢人に参加したい方は、以下に連絡してください

問い合わせ 上野 司 u19551216@gmail.com

問い合わせ 真 華丸 kamal@hynk.org